The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	令和六年度　名誉教授一覧
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人文学研究科紀要. 2025, 2, p. 237-277
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/100809
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

令和六年度 名誉教授 一覧

※塩谷（しおたに） 茂樹（しげき）	教授	外国学専攻・モンゴル語
渋谷（しぶや） 勝己（かつみ）	教授	日本学専攻・基盤日本語学講座
鈴木（すずき） 広和（ひろかず）	教授	外国学専攻・ハンガリー語
田邉（たなべ） 欧（うた）	教授	外国学専攻・デンマーク語
※堤（つつみ） 研二（けんじ）	教授	人文学専攻・グローバルヒストリー・地理学講座（人文地理学）
平田恵津子（ひらたえつこ）	教授	外国学専攻・ポルトガル語
※福永（ふくなが） 伸哉（しんや）	教授	日本学専攻・考古学講座
藤川（ふじかわ） 隆男（たかお）	教授	人文学専攻・グローバルヒストリー・地理学講座（西洋史学）
※古川（ふるかわ） 裕（ゆたか）	教授	外国学専攻・中国語
山下（やました） 仁（ひとし）	教授	言語文化学専攻・コミュニケーション論講座

※印の方については、略歴と主要業績の一覧を掲載しています。

塩谷茂樹名誉教授 略歴・主要業績

略歴等

【略歴】

1978年３月　石川県立金沢泉丘高等学校卒業
1978年４月　大阪外国語大学外国語学部モンゴル語学科卒業
1985年３月　大阪外国語大学外国語学部モンゴル語学科卒業
1980年10月　モンゴル人民共和国モンゴル国立大学留学（～ 1982年12月）
1988年３月　京都大学大学院文学研究科言語学専攻 修士課程修了
1991年３月　京都大学大学院文学研究科言語学専攻 博士後期課程単位取得退学
1992年４月　日本学術振興会特別研究員（～ 1994年３月）
1995年４月　大阪外国語大学地域文化学科アジアⅠ講座 講師
1997年１月　大阪外国語大学地域文化学科アジアⅠ講座 助教授
2007年10月　大阪大学世界言語研究センター 准教授（大阪大学との統合による）
2009年４月　大阪大学世界言語研究センター 教授
2012年４月　大阪大学言語文化研究科 教授
2022年４月　大阪大学人文学研究科 教授（～現在に至る）

【受賞】

モンゴル国政府国家勲章「科学上級研究員」章 モンゴル国教育科学大臣 オラーンバータル（2023年９月15日）

研究・教育業績*

＊研究分野：１．モンゴル語形態論・語彙論（派生接尾辞・語源学）、２．モンゴル口承文芸（ことわざ・民話）、３．モンゴル語方言学（中国のモンゴル系民和土族語）、４．モンゴル語・日本語比較研究（モンゴル語教材の開発）

【著書】

1．（共著）『モンゴル語慣用句辞典』大阪大学出版会 大阪（近刊）

2．（監修）『モンゴル語オノマトペ用法辞典』大学書林 東京 978-4-475-01903-3（2023年８月）

3．（共著）『土族語文法』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 東京 978-4-86337-294-8（2019年３月）

4．（共著）『モンゴルのことばとなぜなぜ話』大阪大学出版会 大阪 978-4-87259-483-6（2014年10月）

5．（共著）『エルヒー・メルゲンと七つの太陽 モンゴルのいいつたえ集』春風社 横浜 978-4-86110-338-4（2012年12月）

6．（共著）『初級モンゴル語練習問題集』大学書林 東京 978-4-475-01889-0（2011年８月）

7．（共著）『大阪大学世界言語研究センター　世界の言語シリーズ３　モンゴル語』大阪大学出版会 大阪 978-4-87259-327-3（2011年３月）

8．（単著）『モンゴル語ハルハ方言における派生接尾辞の研究〈改訂版〉』大阪978-4-9904936-0-8（2009年11月）

9．（共著）『モンゴル語文法問題集―初級・中級編―（平成21年度言語研修モンゴル語研修テキスト１）』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所　東京 978-4-86337-039-5（2009年10月）

10. （単著）『モンゴル語ハルハ方言における派生接尾辞の研究』大阪外国語大学学術研究双書 大阪 4-900588-35-0（2007年３月）

11. （共著）『モンゴル語ことわざ用法辞典』大学書林 東京 4-475-01873-0（2006年２月）

12. （単著）『モンゴル語形態論及び語彙論研究』インタープレス オラーンバータル 99929-2-185-4（2004年９月）

13. （単著）『モンゴル語日本語ことわざ比較研究』大阪外国語大学学術研究双書 大阪 4-900588-33-4（2004年２月）

14. （共著）『初級モンゴル語』大学書林 東京 4-475-01851-x（2001年６月）

15. （単著）『草原の国のむかし話―モンゴル―』能登印刷出版部 金沢 4-89010-245-0（1995年６月）

16. （単著）『モンゴル語会話・読解（モンゴル語研修テキスト２）』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 東京（1993年７月）

【論文等】

1．（論文）「モンゴル語のалим“リンゴ”という単語の起源について―音声・形態・意味及び言語分布からの通時的研究」*Altaica* Vol.20　131-140 オラーンバータル（2024年12月）

2．（その他）「季刊誌『生産と技術』が取り持った85年ぶりの運命的な出会い」『生産と技術』第77巻 第1号 120-124 大阪（2025年1月）

3．（その他）「J. ロブサンドルジ先生に捧ぐ」『モンゴル研究の“黄金のつなぎ縄”』（学者ジュグデル・ロブサンドルジ先生生誕85周年）168-171 オラーンバータル（2024年8月）

4．（論文）「民和土族語の動詞 *ki- の歴史的変遷を現代モンゴル語と比較して」『モンゴル研究』Vol.47（597）247-257 オラーンバータル（2024年7月）

5．（論文）「現代モンゴル語における人名の呼称法―言語的特徴、呼称規則及び接尾辞に言及して―」『言語文学研究』Vol.16（48）132-142 オラーンバータル（2024年5月）

6．（論文）「民和土族語における若干の飲食物名の音声・意味変化について」『外国語教育のフロンティア』Vol.7　11-27 大阪（2024年3月）

7．（その他）「大阪でのモンゴル語教育100年の歴史を振り返って」『生産と技術』第76巻第1号 104-107 大阪（2024年1月）

8．（論文）「民和土族語の派生接尾辞の研究」『外国語教育のフロンティア』Vol.6　21-38 大阪（2023 年3月）

9．（論文）「民和土族語の通時的子音変化について」『モンゴル語文研究の発展と傾向（国際学術会議論集）』146-157 モンゴル科学アカデミー言語文学研究所 オラーンバータル（2023年1月）

10.（書評）「書評：海老澤哲雄著『十三世紀東西交流史研究』開文社出版」『図書新聞』No.3555 東京（2022年8月）

11.（論文）「民和土族語の述語形式に関する初歩的研究 ―モンゴル語族内の位置づけと主観・客観形式の弁別をめぐって―」『言語文化研究』Vol.48　229-248 大阪（2022年3月）

12.（その他）「橋本勝先生秋の叙勲受章とモンゴル語専攻創立100周年に寄せて」『朔風』第10号　4-6 大阪（2022年2月）

13.（書評）「書評：島村一平著『ヒップホップ・モンゴリア 韻がつむぐ人類学』青土社」『週刊読書人』No.3393 東京（2021年6月）

14.（その他）「大阪外国語大学・大阪大学外国語学部100年史 写真で振り返る100年 モンゴル語」大阪外国語大学創立100周年記念事業委員会 85-92 大阪（2021年5月）

15.（書評）「書評：ボルジギン・フスレ編著『改訂版 ユーラシア草原を生きるモンゴル英

雄叙事詩』三元社」『図書新聞』No.3426 東京（2019年12月）

16. （論文）「民和土族語の通時的母音変化について」『言語文学研究』Vol.12（44） 98-106 オラーンバータル（2019年11月）
17. （論文）「モンゴル語族における出動名詞接尾辞 *-gur²について」*Acta Mongolica* Vol.16（426） 32-39 オラーンバータル（2015年10月）
18. （論文）「モンゴル語の内臓を表す若干の語彙に見られる意味のシンボリズム―特に慣用句及び派生語に言及して―」『日本モンゴル学会紀要』38 51-64 大阪（2008年２月）
19. （翻訳）「モンゴルラテン文字の使用，Ｅ.プレブジャブ（塩谷茂樹訳）」『モンゴル研究論文集』55-64 オラーンバータル（2006年７月）
20. （論文）「モンゴル語の出動名詞接尾辞 -mqai（-mgai, -mtgai）の起源に関して―特に満洲・ツングース諸語と比較して」『国際モンゴル学会紀要』Vol.34, 35 82-93 オラーンバータル（2005年４月）
21. （論文）「モンゴル語族における《習慣》や《傾向》を表す出動名詞接尾辞について」『大阪外国語大学論集』31 115-144 大阪（2005年３月）
22. （論文）「モンゴル語の《鞭》を表す語の起源について」『国際モンゴル学会紀要』33 114-127 オラーンバータル（2004年４月）
23. （論文）「モンゴル語の《熊》と《子熊》を表す語の起源について」『日本モンゴル学会紀要』34 13-29 大阪（2004年２月）
24. （論文）「蒙古文語及び中国領内の満洲・ツングース諸語における対応する接尾辞について」『大阪外国語大学論集』30 109-148（2004年２月）
25. （論文）「モンゴル語ハルハ方言と内モンゴル中部方言における若干の常用語彙比較について」『大阪外国語大学論集』29 165-173 大阪（2003年９月）
26. （論文）「モンゴル語における《ふいご》,《橋》,《馬乳酒の革袋》及び《嗅ぎタバコ入れ》を表す語の起源について」*Mongolica* Vol.11（32） 277-281 オラーンバータル（2001年10月）
27. （論文）「モンゴル語族における《明日》を表す語の形態及び意味変化について」『蒙古語文』6 27-32 呼和浩特（2001年６月）
28. （翻訳）「モンゴル語の舌慣らし言葉，Ｅ．プレブジャブ（塩谷茂樹訳）」『日本モンゴル学会紀要』30 73-88 東京（2000年２月）
29. （翻訳）「中国領内の蒙古語族系少数民族に伝わる民話」『日本とモンゴル』93 72-99 東京（1996年９月）
30. （その他）「モンゴルの絵本―モンゴル国と日本における現状と問題点」『日本児童文学』

42　106-107 東京（1996年４月）

31.（論文）「モンゴル語における《瞼》と《眉》を表す語の意味変化について―特にその語構造に言及して」*Mongolica* 6（27）108-117 オラーンバータル（1995年10月）

32.（翻訳）「中国領内の蒙古系孤立的諸言語に伝わる民話・動物編」『日本とモンゴル』88 30-60 東京（1994年３月）

33.（論文）「中国領内の蒙古系孤立的諸言語における接尾辞一覧・蒙古文語索引」『日本モンゴル学会紀要』23 165-199 東京（1993年３月）

34.（論文）「『蒙古秘史』動詞対üderi- / üderid- に見える末尾の -d- の解釈をめぐって」『言語学研究』10 23-61 京都（1991年12月）

35.（論文）「ダグール語ハイラル方言の口語資料―テキストと註釈」『日本モンゴル学会紀要』21 47-95 東京（1991年３月）

36.（論文）「蒙古語におけるdeverbal verbal suffix -s- について」『言語学研究』8 53-84 京都（1989年12月）

【報道】

1.「ゲストアワー：大阪大学教授 モンゴル学者 塩谷茂樹」モンゴル・イーグルラジオ　オラーンバータル（2023年９月16日）

2.「塩谷茂樹　私はモンゴルのことわざで授業を始め、また授業を終える」モンゴル日刊新聞『ウヌードゥル』No.212（5905）7 オラーンバータル（2016年９月15日）

3.「塩谷茂樹　モンゴル人はプラス思考、日本人はややマイナス思考」モンゴル週刊新聞『オープン・ドア』No.34（115）1 3-5 オラーンバータル（2016年９月９日）

4.「モンゴル語文法の諸問題と言葉の乱れについて語る」モンゴルテレビ「今朝」オラーンバータル（2015年９月８日）

5.「モンゴル語学者 塩谷茂樹が語る」サンサル・ケーブルテレビ オラーンバータル（2015年９月５日）

6.「モンゴル語教育について語る」モンゴルテレビ「今朝」オラーンバータル（2015年８月25日）

7.「モンゴルのことばとなぜなぜ話 親子で学べる楽しい児童書」読売新聞（2014年12月18日）

8.「初級モンゴル語練習問題集」朝日新聞（2011年９月６日）

9.「モンゴル語ことわざ用法辞典」朝日新聞（2006年３月６日）

10.「初級モンゴル語」朝日新聞（2001年７月５日）

11.「草原のむかし話　日本で」オラーンバータル紙（モンゴル）（1996年２月８日）
12.「モンゴル民話集め絵本に」北国新聞（1995年10月５日）
13.「絵本で分かるモンゴルの国」北陸中日新聞（1995年８月20日）
14.「日本のこどもたちにモンゴルの絵本」毎日新聞（1995年８月11日）

【社会活動（講演）】

１.「モンゴルの異文化を口承文芸から一緒に学びましょう」西宮市宮水学園・教養講座６月講演会　於西宮市民会館アミティ・ベイコムホール（2024年６月27日）
２.「モンゴルとことわざ―モンゴル的特徴と文化の違い」大阪大学外国語学部主催　みのお市民活動センター協力「マンスリー多文化サロン」５月講演会　於大阪大学箕面キャンパス１F大講義室（2024年５月16日）
３.「民和土族語の述語形式に関する基礎研究―モンゴル語族における位置付けと主観・客観形式の弁別」モンゴル国言語政策国民評議会主催「モンゴル語と文字の遺産 第３回連続公開講義」於オラーンバータル（2024年３月22日）
４.「現代モンゴル語における人名の呼称法を日本語と比較して」モンゴル国立大学科学院モンゴル語・言語学研究室主催、連続公開セミナー 於オラーンバータル（2024年３月14日）
５.「民和土族語における若干の飲食物名の音声・意味変化について」モンゴル科学アカデミー言語文学研究所主催「研究者の新見解―新研究　第８回連続公開セミナー」於オラーンバータル（2024年３月13日）
６.「日本の大阪大学におけるモンゴル語教育100年」モンゴル国立大学アジア学科日本語専攻主催 於オラーンバータル（2023年９月18日）
７.「モンゴル語研究の緊急課題」国際識字デー言語政策国民評議会主催 於オラーンバータル（2023年９月８日）
８.「大阪外国語大学・大阪大学外国語学部モンゴル語教育100年史　私とモンゴル語」モンゴル科学アカデミー言語文学研究所主催 於オラーンバータル（2023年３月20日）
９.「ことわざより見られるモンゴルの文化」阪大外国語学部 × みのお市民活動センター主催「マンスリー多文化サロン」11月講演会 於みのお市民活動センター（2019年11月21日）
10.「モンゴルの民話からいいつたえまで」大阪大学外国語学部連携講座 於NHK文化センター梅田教室（2014年４月５日）
11.「ことわざより見るモンゴルのことばと文化」石川モンゴル友好女性の会 大学婦人協会

金沢支部主催　於石川国際交流サロン（2005年６月４日）

【学生指導】

280人余りの学部卒業論文、37人の大学院修士論文、５人の博士論文の指導を担当し、それぞれの学位取得に尽力した。特に大学院では、積極的にモンゴル人研究生の受け入れを行い、多くの留学生の研究教育に貢献し、優れた人材を育成した。

【学会活動】

日本モンゴル学会の事務局長、編集委員等を務めたほか、学会の理事を計12年歴任した。

【国際会議】

モンゴル国・中国内モンゴル・韓国等の海外のモンゴル国際会議に計10回余り出席した。

【非常勤講師】

京都大学文学部、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所言語研修講師、大阪外国語大学、神戸市外国語大学

堤研二名誉教授 略歴・主要業績

略歴等

【略歴】

1960年３月　福岡県大牟田市にて出生
1978年３月　福岡県立筑紫丘高等学校卒業
1979年４月　九州大学文学部入学
1983年３月　九州大学文学部史学科卒業（文学士）
1983年４月　九州大学大学院文学研究科修士課程入学
1986年３月　九州大学大学院文学研究科修士課程修了（文学修士）
1986年４月　国立佐世保工業高等専門学校　助手（一般科目）
1988年４月　同上　講師
1990年10月　島根大学法文学部　講師
1993年７月　同上　助教授
1999年４月　大阪大学大学院文学研究科文化形態論専攻　助教授
2007年４月　同上　准教授
2009年２月　博士（文学）（九州大学、文博乙第249号；『過疎・人口激減地域における人口流出に関する研究』）
2009年11月　同上　教授
2012年４月　大阪大学大学院文学研究科文化動態論専攻　教授
2021年４月　大阪大学大学院人文学研究科人文学専攻　教授
2025年３月　大阪大学を定年退職

【受賞】

1997年７月　1997年度「地域地理科学会賞」（地域地理科学会）
2005年７月　第１回「昭和シェル石油環境研究課題賞」（昭和シェル石油環境研究助成財団）
2006年２月　平成17年度「国立大学法人大阪大学教育・研究功績賞」（大阪大学）
2012年10月　平成24年度「市民スポーツ・レクリエーション指導者表彰」（豊中市民体育振興協議会）
2015年７月　第４回大阪大学総長顕彰（研究部門）

2016年２月　平成27年度大阪府スポーツ少年団功労者表彰（公益社団法人　大阪体育協会・大阪府スポーツ少年団）

2023年７月　第３回グローバルビジネス学会賞（GBJ賞・著書部門）（一般社団法人・グローバルビジネス学会）

ほか、個人受賞６件・団体受賞２件

研究・教育業績*

*学内の競争的資金の記載は省略。

（1）刊　行　物

【書籍（単著）】

1．2006.3.：「高島炭鉱閉山に伴う人口流出の分析」、『大阪大学大学院文学研究科紀要（モノグラフ編）』第46巻-2、v+113P（全巻単独執筆）。

2．2011.2.：『人口減少・高齢化と生活環境：山間地域とソーシャル・キャピタルの事例に学ぶ』、九州大学出版会、xvi+P.295。

3．2015.9.：『人口減少・高齢化と生活環境：山間地域とソーシャル・キャピタルの事例に学ぶ』（新装版）、九州大学出版会、xvi+P.295。

4．2021.11：“*Depopulation, Aging and Living Environments: Learning from Cases of Mountainous Areas and Social Capital,*” Springer（Singapore）, Xiii+P.277.（Series: Advances in Geographical and Environmental Sciences）.

【書籍（共編著）】

1．Kobayashi, K., Matsuo, Y. and Tsutsumi, K.（eds.）1999.12.：“*Local Knowledge and Innovation: Enhancing the Substance of Non-Metropolitan Regions,*” MARG（Kyoto）, 357P（単独執筆部分：Tsutsumi, K. “An Essay on Counterpolicies to Depopulation: Challenges for/from Depopulated Regions,” pp.249-255.ほかCh.1, pp.1-4を共編者で執筆）.

2．人文地理学会 編 2013.9.：『人文地理学事典』、丸善出版、xxii+P.761（編集委員として編集を担当）。

3．豊中市スポーツ少年団 2015.6.：『豊中市スポーツ少年団50年の歩み：1963 ～ 2013』、豊中市スポーツ少年団本部、ii+P.125（豊中市スポーツ少年団創設50周年記念誌編集部会

委員長（編集責任者）として編集・執筆を担当)。

【書籍（共訳)】

Ⅰ．2019.11.：ハース、T.・ウエストルンド、H.（編著)、小林潔司（監訳)、堤研二・松島格也（共訳)『ポストアーバン都市・地域論：スーパーメガリージョンを考えるために』、ウェッジ、416Ｐ；2022.3.第２刷刊行。

【書籍（査読付き）所収】

1．1995.12.: "Regional Identity in Japanese Centralism, " in Winfried Flüchter (ed.) "*Japan and Central Europe Restructuring: Geographical Aspects of Socio-economic, Urban and Regional Development,* " Section 6, pp.240-250, Harrassowitz Verlag (Wiesbaden).

2．1998.8.: "Depopulated Regions in Japan: A Case Study on the Former Coal-Mining Region, Takashima, Nagasaki Prefecture, Japan, " in Lennart Andersson and Thomas Blom (eds.) "*Sustainability and Development: On the Future of Small Society in a Dynamic Economy,* " pp.230-235, University of Karlstad (Karlstad, Sweden).

3．2002.11.："Regional Functions and Information Technology in Depopulated Areas: Some Cases in Japan, " *Communication and Regional Development* (The International Symposium on Communication and Regional Development), pp.183-189 (University of Karlstad, Karlstad Sweden).

4．2005.6.：" Fundamental Functions of Living, Social Capital and Agents in a Small Community: A Case in Depopulated Areas in Japan, " Kobayashi, K., Westlund, H. and Matsushima, K. (eds.) "*Social Capital and Development Trends in Rural Areas,* " pp.131-138 (Chapter 8), MARG (Kyoto).

5．2005.："Aging, Landscape, Restructuring and Conflicts in an Old New Town: *Senri New Town* in *Osaka* Metropolitan Area, " Thomas Feldhoff and Winfried Flüchter (eds.) "*Shaping the Future of Metropolitan Regions in Japan and Germany: Governance, Institutions and Place in New Context*" (The 9th Japanese-German Geographical Conference, Ruhr University Bochum, Bochum, Germany, published in Duisburg)：No1, pp.171-177.

6．2006.3.："Social Ties in Communities: Some Rural and Urban Cases in Japan, " Ito, K., Westlund, H., Kobayashi, K. and Hatori, T. (eds.) "*Social Capital and Development Trends in Rural Areas* Vol.2, " pp.115-127 (Chapter 9), MARG (Kyoto).

7. 2008.9. : "Drastic Depopulation, Town Renovation and Social Capital on a Coal Mining Island, " Kobayashi, K., Westin, L. and Westlund, L. (eds.) "*Social Capital and Development Trends in Rural Areas* Vol.3" pp.47-59 (Chapter 4), CERUM (Center for Regional Science, Umeå University, Umeå , Sweden).

8. 2009.3. : "Social Ties and "Social Capital" in Areas under Shrinking and Marginalization process in Japan, " Kobayashi K., Tamura, T., Westlund, L. and Jeong Hayeong (eds.) "*Social Capital and Development Trends in Rural Areas* Vol.4" pp.19-29 (Chapter 3), MARG (Marginal Areas Research Group, Graduate School of Urban Management, Kyoto Univ., Kyoto, Japan).

9. 2010.8. : "Settlement Activities and Social Capital of Depopulated Rural Areas in Japan, " Westlund H. and Kobayashi, K. (eds.) "*Social Capital and Development Trends in Rural Areas* Vol.5," MARG (Marginal Areas Research Group, Graduate School of Urban Management, Kyoto Univ., Kyoto, Japan), supported by Swedish Board of Agriculture (Jordbruk-sverket), Royal Institute of Technology (KTH), and RUREG (Research Unit for Rural Entrepreneurship and Growth) of Jönköping International Business School of Jönköping University, Sweden.

10. 2011.2. : "Social Capital in Rural Studies in Japan: An Examination of Actual Forms of Social Capital Especially in Rural Japan, " Kobayashi K., Westlund, L. and Jeong Hayeong (eds.) "*Social Capital and Development Trends in Rural Areas* Vol.6," pp.129-139 (Chapter 10), MARG (Marginal Areas Research Group, Graduate School of Urban Management, Kyoto Univ., Kyoto, Japan).

11. 2012. 2. : "Formation of the Tourist Industry at the Core of a Shrine through the Modern and Present Eras: Social Capital and Agent around *Dazaifu*, " Kobayashi K., Westlund, L. and Jeong Hayeong (eds.) "*Social Capital and Development Trends in Rural Areas* Vol.7" pp.69-85 (Chapter 6), MARG (Marginal Areas Research Group, Graduate School of Urban Management, Kyoto Univ., Kyoto, Japan).

12. 2012. 2. : "Interscale and Interlevel Problems of Research on Social Capital in Rural Japan, " Kobayashi, K., Westlund, L. and Jeong Hayeong (eds.) "*Social Capital and Development Trends in Rural Areas* Vol.7," pp.241-256 (Chapter 15), MARG (Marginal Areas Research Group, Graduate School of Urban Management, Kyoto Univ., Kyoto, Japan).

13. 2013.12. : "Mountainous Areas in Japan and Forest Town Management Model

(FTMM), " Westerdahl, S., Westlund, H. and Kobayashi, K. (eds.) "*Social Capital and Development Trends in Rural Areas* Vol.8," pp. 245-254 (Chapter 15), CENSE (Center for Entrepreneurship and Spatial Economics), Jönköping International Business School of Jönköping University, Sweden.

14. 2014.7. : "Marginality and Sustainability of Mountainous Village and Forestry," Matsushima, K., Westlund, H. and Kobayashi, K. (eds.) "*Social Capital and Development Trends in Rural Areas* Vol.9," pp. 39-48 (Chapter 5), MARG (Marginal Areas Research Group, Graduate School of Urban Management, Kyoto Univ., Kyoto, Japan).
15. 2015.12. : "Junior Sports Club and Regional Social Capital in Japan," von Friedrichs, Y., Westlund, H. and Kobayashi, K. (eds.) "*Social Capital and Development Trends in Rural Areas* Vol.10、" pp.69-75 (Chapter 6), Jönköping International Business School of Jönköping University, Sweden.
16. 2016.3. : "Trial for Sustaining Regional Life in a Peripheral Island Town: A Case of *Okinoshima* -," Kobayashi, K., Westlund, H., Matsushima, K. and Ohno, S. (eds.) "*Social Capital and Development Trends in Rural Areas* Vol.11," pp. 223-236 (Chapter 15), MARG (Marginal Areas Research Group, Graduate School of Urban Management, Kyoto Univ., Kyoto, Japan).
17. 2017.3. : "Social capital," Douglas Richardson (Editor-in chief), et al (The American Association of Geographers) (eds.) "*The International Encyclopedia of Geography: People, the Earth, Environment, and Technology,*" pp.6190-6196 (Vol.XII: SNO-SPA), Wiley Blackwell.
18. 2019.6. : "Rural-Urban Regional Relationships and Social Scape Networks in Japan at the Post-Urban Era, " Matsushima, K., Kobayashi, K. and Westlund. H. (eds.) "*Social Capital and Development Trends in Rural Areas* Vol.12," pp. 19-29 (Chapter 3), MARG (Marginal Areas Research Group, Graduate School of Urban Management, Kyoto Univ., Kyoto, Japan).
19. 2021.3. : "Posturbanity," Douglas Richardson (Editor-in chief), et al (The American Association of Geographers) (eds.) "*The International Encyclopedia of Geography: People, the Earth, Environment, and Technology,*" (ISBN:978-0-470-65963-2) ; https://doi.org/10.1002/9781118786352.wbieg2112, pp.1-6, Wiley Blackwell.

【学会誌（査読付き・招待投稿）所収（単著）】

1．1987.6.：「過疎山村・大分県上津江村からの人口移動の分析」、『人文地理』（人文地理学会）第39巻３号、pp.1-23。

2．1989.12.：「人口移動研究の課題と視点」、『人文地理』（人文地理学会）第41巻６号、pp.41-62。

3．1992.4.：「ドイツ社会地理学の一系譜：社会地理学論争の周辺」、『人文地理』（人文地理学会）第44巻２号、pp.44-65。

4．1995.9.：「産業近代化とエージェント：近代の八女地方における茶業を事例として」、『経済地理学年報』（経済地理学会）第41巻３号、pp.17-37。

5．1998.6.：「離島空港をめぐる諸問題：隠岐空港を事例として」、『地域地理研究』（地域地理科学会）第３巻、pp.57-66。

6．2001.4.：「過疎地域の人口と過疎問題：2000年国勢調査速報をもとに」、『統計』（財団法人・日本統計協会）第52巻第４号、pp.18-24。

7．2002.4.：「過疎・高齢化地域における医療・救急体制の整備とIT」、『建築と社会』（社団法人・日本建築教会）第83集・通巻961号、pp.28-29。

8．2016.4.「人口のメガシュリンクと街づくり：過疎地域の実態から学ぶこと」、*ER*（富士通総研経済研究所　経済・経営・技術読本）第２号、pp.38-39。

9．2019.7.：「ポストアーバン時代における縁辺地域の持続可能性：島根県隠岐の島町を事例として」、『グローバルビジネス学会2019年度発表会予稿集』、６P.（https://s-gb.net/contents/3377_12.pdf）。

10. 2021.8.：「日本の過疎地域と国土」（人口×国土）、『土木学会誌』（特集「新しい国土」）106巻８号（2021年８月号）、pp.32-33。

11. 2023.9.：「社会地理学からみた縁辺地域の持続可能性」、『學士會会報』（學士會）第962号（2023-Ⅴ）、pp.47-51。

【学会誌（査読付き）所収（共著）】

1．高津斌彰・水内俊雄・実清隆・水岡不二雄・堤　研二 1995.3.：「空間編成論と日本の社会・経済地理学：D．ハーヴェイの理論を中心に（1994年秋季学術大会シンポジウム）」、『地理学評論』（日本地理学会）第68（A）巻３号、pp.180-190。

2．Mizuoka, F., Mizuuchi, T., Hisatake, T., Tsutsumi, K. and Fujita, T. 2005.6.：“The Critical Heritage of Japanese Geography: Its Tortured Trajectory for Seven Decades,” *Society and Space*（*Environment and Planning*, Ser.D）23-3, pp.453-473.

【その他】

①学会誌・紀要所収：13本（うち共著１本）、②自治体史所収：３本（うち共著１本）、③商業誌：３本、④単行本所収（ハードカバーのプロシーディングスを含む）：18本（うち海外刊１本）、⑤海外プロシーディングス所収：５本（うち１本受理・未刊）、⑥報告書：20本（うち英文３本）、⑦英語論文解題付き翻訳：１本、⑧中学校検定教科書：２項目、⑨事典・資料集などの大項目:1項目、⑩事典・資料集などの中小項目：14項目（うち共著１項目）、⑪学会展望：２本、⑫書評：８本、⑬授業テキスト：１冊（石井徹・飯塚登世一・田籠博・堤研二・松井嘉徳（島根大学法文学部文学科情報科学演習カリキュラム委員会）(1995.3.)：『チャレンジ・パソコン（第１版）』（堤担当箇所：「第４章 表計算 LOTUS1-2-3」pp.54-77　および「第５章 LIBISとSUNCS」pp.78-87)、同委員会。)、⑭単行本編集：１冊（懐徳堂記念会編（2007.5）『大坂・近畿の城と町』（懐徳堂ライブラリー７）、和泉書院、iii+165頁。）⑮ＷＥＢサイト掲載：１本、⑯新聞記事・雑誌掲載：３本、⑰書籍シリーズ解説：１本。

（2）口　頭　発　表

【海外で開催分の国際学会・国際集会：29本（うち招待（■印）など17本)】

1．■1992.8.：“Regional Identity in the Japanese Centralism,” The 7th Japanese-German Geographical Conference（Duisburg University, Duisburg, Germany）:1992.8.16（日）-27（木）.

（　中　略　）

29. 2024.9.：“On “*Grunddaseinsfunktionen*”：Its concept and appliance,” The 18th Workshop on Social Capital and Development Trends of Countrysidein Knowledge Economy（IIASA；International Institute of Applied Systems Analysis, Laxenburg, Austria）：2024.9.16（月）-9.17（火）.

【国内で開催分の国際学会・国際集会・国際プログラム：20本（うち招待など５本)】

1．1995.10.:“Depopulated regions in Japan: A Model on Social Regional Change in Peripheral Regions,” Exploring Sustainability: The International Symposium on the Future of Small Society in a Dynamic Economy,（Tottori Prefectural Culture Hall, Tottori）:1995.10.24（火）-28（土）.

（　中　略　）

20. 2024.9.：“A History of Methods of Urban and Regional Analysis：Provide of Topics,” the 7th Workshop by the Cutting Edge Research Group（CERG））（Web conference chaired by the Cutting Edge Research Group（CERG）, Osaka University, Toyonaka）：2024.9.21（土）.

【国内で開催分の国内学会：30本（うち招待など２本）】

１．1983.7.：「八女茶業地域の形成過程」、福岡地理学会夏季研究発表会（福岡ガーデンパレス、福岡市）：1983.7.10（日）。

（　　中　　略　　）

30. 2024.7.：「三池争議：闘争の階層構造」、福岡地理学会夏季研究発表会（久留米大学福岡サテライト・エルガーラオフィス（大丸福岡天神店エルガーラ東館）６階、福岡市）：2024.7.21（日）。

【国内で開催分のその他の研究集会：11本】

１．2000.1.：「ICGGテグについて」、日本地理学会社会地理学研究グループ研究会（和歌山県白浜町）:2000.1.29（土）-31（月）。

（　　中　　略　　）

11. 2024.4.：「文化財情報を考える視点：地理学者としての私の場合」、文化財情報化勉強会第３回研究集会ＷＥＢ開催）：2024.4.15（月）。

【国内で開催の研究会・講演会：36本（うち招待（■印）など35本）】

１．■1991.12.：「過疎山村地域の道路整備について」、建設省九州地方建設局主催『フォーラム　みち・みらい九州』（ホテル日航福岡、福岡市）：1991.12.4（水）。

（　　中　　略　　）

36. ■2024.9.：「おきゼミ サマーセミナー：隠岐の島町の未来予想図 Part II：まとめと展望」、おきゼミ（隠岐の島町教育文化振興財団）、（隠岐島文化会館、島根県隠岐郡隠岐の島町）：2024.9.7（土）。

（３）外部資金（研究分担者分は省略）

【科学研究費：研究代表者分】

①重点領域研究：１回、②基盤研究（Ａ）：１回、③基盤研究（Ｂ）：１回、④基盤研究（Ｃ）：

４回、挑戦的研究（萌芽）：１回　　直接経費総額5,470万円。

【その他の外部資金：研究代表者分】

①佐川交通安全社会財団：１回、②河川環境管理財団：１回、③日本証券奨学財団：１回、④昭和シェル石油環境研究助成財団：１回　　直接経費総額430万円。

（４）教　育（学外授業担当分）

【集中講義：５部局（出講回数）】

①長崎大学教育学部：７回、②島根大学法文学部：２回、③東京都立大学理学研究科：２回、④お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科：１回、⑤九州大学人文科学府：１回

【非常勤講義：８部局（のべ学期数）】

①追手門学院大学経済学部：６学期、②京都大学経営管理大学院：５学期、③大阪市立大学文学部：４学期、④関西学院大学文学部：３学期、⑤追手門学院大学文学部：２学期、⑥島根医科大学医学部：１学期、⑦関西学院大学社会学部：１学期、⑧京都大学文学部：１学期

【出前授業：５校６回】

①大阪府立池田高等学校、②福岡県立筑紫丘高等学校、③鹿児島県立甲南高等学校、④さいたま市立桜木中学校、⑤島根県立隠岐高等学校（２回）

社会連携・学内役職など

【学会役員・委員など；就任歴・年次等省略、順不同】

①福岡地理学会：事務局・会計、②島根地理学会：常任理事、幹事・事務局、理事、③中四国都市学会：理事、④経済地理学会：幹事・渉外委員、⑤人文地理学会：協議員、評議員、庶務委員、編集委員、理事、大会準備委員、選挙管理委員長、将来構想委員、法人化検討委員、学会賞選考委員、地理思想研究部会世話人代表、⑥日本地理学会：代議員、学会賞選考委員、E-Journal GEO閲読担当委員、⑦Marginal Areas Research Group：代表、⑧グローバルビジネス学会：監事。

【他大学・公共団体等関連委員など；就任歴・年次等省略、順不同】

①長崎大学医学部衛生学教室研究員（齋藤寛教授）、②太宰府市史資料調査員、③九州大学文学部附属九州文化史研究施設考古学部門研究員（田中良之助教授）、④建設省九州地方建設局提言委員、⑤島根県航空行政推進会議委員・隠岐空港部会座長、⑥建設省中国地方建設局および四国地方建設局「西中四国地方における広域連携整備計画調査」建設省委員、⑦島根県中山間地域研究センター地域づくり支援ブレーン、⑧島根県安来市ほか五町村・鉄の道文化圏調査研究委員、⑨国土交通省中国地方整備局「中国地方における多自然居住地域整備計画調査」国土交通省委員、⑩島根県隠岐郡７町村ほか「隠岐空港整備利用促進協議会」オブザーバー、⑪東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所：外部評価委員、⑫静岡県人口減少問題に関する有識者会議委員、⑬島根県隠岐の島町教育文化振興財団相談役、⑭大学入試センター教科専門委員、⑮日本学術振興会・科研費審査委員（基盤研究（A）・(S)ほか)、⑮タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）グローバル学術機関評判調査2025回答員。

【高校等との連携】

①出前授業（前ページ参照)、②島根県立隠岐高等学校・世界ジオパーク研究授業への助言・指導、③島根県立隠岐高等学校の関西研修旅行の受け入れ（研究発表会の開催・大阪大学豊中キャンパス内での見学・巡検の催行；５回）

【社会連携・地域連携実践活動など；就任歴・年次等省略、順不同】

①青少年への拳法指導（豊中市立新田小学校、小曽根小学校、第十二中学校)、②拳法団体役員（少林寺拳法豊中新田スポーツ少年団長、大阪府少林寺拳法連盟事務局長、義和拳法会本部長)、③スポーツ少年団役員（豊中市スポーツ少年団本部副本部長、大阪府スポーツ少年団本部理事)、④日中友好協会役員（豊中市日中友好協会理事、大阪府日中友好協会理事)、⑤隠岐の島町教育文化振興財団相談役、⑥川口交通遺児育英会評議員。

【大阪大学・学内役職など（抄）；就任歴・年次等省略、順不同】

①総長補佐（財務オフィス・副オフィス長)、②将来構想委員会・総合計画準備室員、③文理融合研究戦略ワーキング委員、④文系融合研究戦略ワーキング委員、⑤工学研究科兼任教員、⑥先導的学際研究機構（OTRI)「グローバルヒストリー研究部門」兼任教員、⑦先導的学際研究機構（OTRI)「『新たな防災』を軸とした命を大切にする未来社会研究部門」兼任教員､⑧リーディング大学院「超域イノベーション博士課程教育プログラム」兼任教員･

主査・研究科代表、⑨エラスムス・ムンドゥス「ユーロカルチャー・コース」導入調査担当、⑩大阪大学少林寺拳法部（大学公認サークル）副部長、⑪大阪大学公共政策研究会（大学公認サークル）顧問教員。

福永伸哉名誉教授 略歴・主要業績

略歴等

【略歴】

1978年３月　広島県立福山誠之館高等学校卒業
1978年４月　大阪大学文学部入学
1982年３月　大阪大学文学部史学科卒業
1982年４月　大阪大学文学部聴講生（1983年３月まで）
1983年４月　大阪大学大学院文学研究科史学専攻修士課程入学
1985年３月　大阪大学大学院文学研究科史学専攻修士課程修了
1985年４月　大阪大学大学院文学研究科史学専攻博士課程入学
1986年３月　大阪大学大学院文学研究科史学専攻博士課程中途退学
1986年４月　大阪大学文学部助手（1994年３月まで）
1994年４月　大阪大学部助教授（1999年３月まで）
1999年４月　大阪大学大学院文学研究科助教授（2005年３月まで）
2005年３月　博士（文学）（大阪大学）
2005年４月　大阪大学大学院文学研究科教授（2022年３月まで）
2018年４月　大阪大学文学研究科長・文学部長（2020年３月まで）
2022年４月　大阪大学大学院人文学研究科教授（現在に至る）

【受賞】

1997年９月　第６回雄山閣考古学特別賞（編著書に対して），雄山閣出版
2003年12月　大阪大学共通教育賞（2003 年度前期），大阪大学共通教育機構
2006年９月　第19回濱田青陵賞，岸和田市・朝日新聞社
2015年６月　大阪大学総長顕彰（2015 年度），大阪大学

主要研究業績

【著書】

（単著）

1．福永伸哉『邪馬台国から大和政権へ』大阪大学出版会，pp.1-90, 2001.10

2．福永伸哉『三角縁神獣鏡の研究』大阪大学出版会，pp.1-358, PL.1-48, 2005.8

（編著）

1．福永伸哉（編著）『シンポジウム三角縁神獣鏡』学生社，pp.1-260, 2003.5

2．福永伸哉・一瀬和夫・北條芳隆（共編著）『古墳時代の考古学』（全10巻），同成社，2011.12 -2014.3

3．Thomas Knopf, Werner Steinhaus, FUKUNAGA Shin'ya（eds.）, *Burial Mounds in Europe and Japan: Comparative and Contextual Perspectives*, Archaeopress, pp.195-204, 2018.12

4．松木武彦・福永伸哉・佐々木憲一（共編著）『日本の古墳はなぜ巨大なのか―古代モニュメントの比較考古学―』吉川弘文館，pp.234-253, 2020.3

（共著）

1．都出比呂志・禰宜田佳男・福永伸哉ほか（共著）『古代国家はこうして生まれた』角川書店，pp.217-275, 1998.2

2．難波洋三・水野正好・福永伸哉ほか『銅鐸と邪馬台国』サンライズ出版，pp.131-162, 195-269, 1999.10

3．水野正好・原口正三・福永伸哉ほか（共著）『邪馬台国と安満宮山古墳』吉川弘文館，pp.51-62, 125-208, 1999.11

4．奥野正男･金子修一･福永伸哉ほか（共著）『シンポジウム邪馬台国が見えた』学生社，pp.38-50, 80-133, 2001.12

5．網干善教･石野博信･福永伸哉ほか（共著）『古代葛城とヤマト政権』学生社，pp.34-52, 107-156, 2003.5

6．大山喬平・脇田修・福永伸哉ほか（共著）『日本史Ｂ』実教出版株式会社，pp.10-33, 2004.1

7．ASANO Kazuo, MASUDA Tomoyuki, FUKUNAGA Shin'ya（et al.）, *The Island of St. Nicholas*, Osaka University Press, pp.17-26, 75-82, 2010.2

8．金関恕・新井宏・福永伸哉ほか（共著）『古代の鏡と東アジア』学生社，pp.5-34, 2011.8

9．和田正巳・福永伸哉（共著）『姫谷焼の陶片資料』真陽社，pp.21-79, PL.1-32, 2013.3

10. 石野博信・来村多加史・福永伸哉ほか（共著）『魏都・洛陽から倭都・邪馬台国へ』雄山閣，pp.133-148, 225-245, 2019.10
11. 平雅行・横田冬彦・福永伸哉ほか（共著）『日本史探究』実教出版株式会社，pp.12-35, 2023.1

【論文】

1．福永伸哉「弥生時代の木棺墓と社会」『考古学研究』第32巻第１号，考古学研究会，pp.81-106, 1985.6
2．福永伸哉「木棺墓」『弥生文化の研究』8 雄山閣出版，pp.117-126, 1987.4
3．福永伸哉「埋葬姿勢研究序論」『菟原―森岡秀人さんと島聖子さんのご結婚によせて―』芦屋郷土資料室OB会，pp.63-67, 1988.5
4．福永伸哉「共同墓地」『古代史復元』6 古墳時代の王と民衆，講談社，pp.120-133, 1989.6
5．福永伸哉「古墳時代の共同墓地―密集型土壙群の評価について―」『待兼山論叢』第23号，大阪大学文学部，pp.83-103, 1989.12
6．福永伸哉「主軸斜交主体部考」『鳥居前古墳―総括編―』大阪大学文学部，pp.103-120, 1990.3
7．福永伸哉「原始古代埋葬姿勢の研究―近畿地方を中心に―」『日本古代葬制の考古学的研究』大阪大学文学部，pp.5-58, 1990.3
8．福永伸哉「木棺墓と人の交流」『原始・古代日本の墓制』同成社，1 pp.147-160, 1991.4
9．福永伸哉「三角縁神獣鏡の系譜と性格」『考古学研究』第38巻第１号，考古学研究会，pp.35-58, 1991.6
10. 福永伸哉「近畿地方の小竪穴式石室―長法寺南原古墳前方部小石室の意義をめぐって―」『長法寺南原古墳 の研究』長岡京市教育委員会，pp.129-160, 1992.3
11. 福永伸哉「倣製三角縁神獣鏡分類の視点」『中山修一先生喜寿記念長岡京古文化論叢Ⅱ』三星出版，pp.491-500, 1992.7
12. 福永伸哉「規矩鏡における特異な一群」『究斑 埋蔵文化財研究会15周年記念論文集』埋蔵文化財研究会15周年記念論文集編集委員会，pp.249-256, 1992.9
13. 福永伸哉「三角縁神獣鏡製作技法の検討―鈕孔方向の分析を中心として―」『考古学雑誌』第78巻第１号，日本考古学会，pp.45-60, 1992.9
14. 福永伸哉「畿内の弥生墓制の特徴は何か」『新視点日本の歴史』１原始編, 新人物往来社, pp.230-238, 1993.4

15. 福永伸哉「魏の紀年鏡とその周辺」『大阪府立弥生文化博物館研究報告』第３集，大阪府立弥生文化博物館，pp.1-14, 1994.3
16. 福永伸哉「倣製三角縁神獣鏡の編年と製作背景」『考古学研究』第41巻１号，考古学研究会，pp.47-72, 1994.6
17. 福永伸哉「雪野山古墳と近江の前期古墳」『雪野山古墳の研究』八日市市教育委員会，pp.293-308, 1996.3
18. 福永伸哉「三角縁神獣鏡の副葬配置とその意義」『日本古代の葬制と社会関係の基礎的研究』大阪大学文学部，pp.25-78, 1995.3
19. 福永伸哉「青龍三年鏡と三角縁神獣鏡」『考古学ジャーナル』388，ニュー・サイエンス社，pp.9-14, 1995.5
20. 福永伸哉「舶載三角縁神獣鏡の製作年代」『待兼山論叢』第30号，大阪大学文学部，pp.1-22, 1996.12
21. 福永伸哉「対半島交渉から見た古墳時代倭政権の性格」『青丘学術論集』第12集，韓国文化研究振興財団，pp.7-26, 1998.3
22. 福永伸哉「華北東部地域の三国時代銅鏡」『東アジアの古代文化』第97号大和書房，pp.114-123, 1998.11
23. 福永伸哉「鏡の多量副葬と被葬者像」『季刊考古学』第65号，雄山閣，pp.26-28, 1998.11
24. 福永伸哉「埋葬施設構築材の象徴性―木石併用棺の存在意義について―」『古代中世の社会と国家』清文堂，pp.3-19, 1998.12
25. 福永伸哉「近畿地方の出現期の古墳」『前方後円墳の出現』季刊考古学別冊8，雄山閣，pp.10-26, 1999.2
26. 福永伸哉「古墳時代の首長系譜変動と墳墓要素の変化」『古墳時代首長系譜変動パターンの比較研究』大阪大学文学部，pp.17-34, 1999.3
27. 福永伸哉「古墳時代前期における神獣鏡製作の管理」『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室，pp.263-280, 1999.4
28. 福永伸哉「古墳の出現と中央政権の儀礼管理」『考古学研究』第46巻第２号，考古学研究会，pp.53-72, 1999.9
29. 福永伸哉・森下章司「河北省出土の魏晋鏡」『史林』83巻１号，pp.123-139, 2000.1
30. 福永伸哉「弥生時代の転換期と春日七日市遺跡」『七日市遺跡と「氷上回廊」』春日町歴史民俗資料館，pp.51-62, 170-179, 2000.3
31. 福永伸哉「中国鏡流入のメカニズムと北近畿の時代転換点」『丹後の弥生王墓と巨大古墳』季刊考古学別冊10，雄山閣，pp.107-114, 2000.8

32. 福永伸哉「葬制からみた変革期」『国家形成過程の諸変革』考古学研究会，pp.31-54, 2000.11
33. 福永伸哉「古墳における副葬品配置の変化とその意味―鏡と剣を中心にして―」『待兼山論叢』第34号，大阪大学文学部，pp.1-24, 2000.12
34. 福永伸哉「画文帯神獣鏡と邪馬台国政権」『東アジアの古代文化』108号大和書房，pp.108-120, 2001.7
35. 福永伸哉「交易社会の光と陰―時代のうねりと丹後弥生社会」『青いガラスのきらめき―丹後王国がみえてきた―』大阪府立弥生文化博物館，pp.94-99, 2002.4
36. 福永伸哉「三角縁神獣鏡」『季刊考古学』第80号，雄山閣，pp.87-90, 2002.8
37. 福永伸哉「昼飯大塚古墳築造の時代背景」『史跡昼飯大塚古墳』大垣市教育委員会，pp.485-494, 2003.3
38. 福永伸哉「畿内北部地域における前方後円墳の展開と消滅過程」『西日本における前方後円墳消滅過程の比較研究』科学研究費補助金成果報告書，大阪大学文学研究科，pp.55-66, 2004.3
39. 福永伸哉「交易社会の発展と赤坂今井墳丘墓」『赤坂今井墳丘墓発掘調査報告書』峰山町教育委員会，pp.133-143, 2004.3
40. 福永伸哉「前方後円墳の出現と国家形成」『文化の多様性と比較考古学』，考古学研究会，pp.121-130, 2004.3
41. 福永伸哉「弥生時代から古墳時代にいたる社会変化」『文化の多様性と21世紀の考古学』考古学研究会，pp.130-149, 2004.4
42. 福永伸哉「三角縁神獣鏡と画文帯神獣鏡のはざまで」『待兼山考古学論集』大阪大学文学研究科，pp.469-484, 2005.3
43. 福永伸哉「倭の国家形成過程とその理論的予察」『国家形成の比較研究』学生社，pp.39-60, 2005.5
44. 福永伸哉「いわゆる継体期における威信財変化とその意義」『井ノ内稲荷塚古墳の研究』大阪大学文学研究科，pp.515-524, 2005.5
45. 福永伸哉「三角縁神獣鏡論」『日本の考古学』（下），学生社，pp.457-463, 2005.12
46. 福永伸哉「近畿地方における弥生時代開始期の埋葬姿勢」『喜谷美宣先生古稀記念論文集』同刊行会，pp.29-38, 2006.6
47. 福永伸哉「副葬鏡群からみた前方後円墳成立期の近江」『考古学論究―小笠原好彦先生退任記念論集』真陽社，pp.145-164, 2007.3
48. 福永伸哉「韓国における前方後円形墳築造の歴史背景―前方後円形であることの意味―」

小澤一雅（編）『前方後円墳のシステム型理解にもとづく古墳時代の情報学的復元』大阪電気通信大学，pp.135-146, 2007.3

49. 福永伸哉「日本の前方後円墳と韓国の前方後円墳」『 交流と葛藤)』湖南考古学会第15回定期学術大会，湖南考古学会，pp.163-184, 2007.5
50. 福永伸哉「古墳時代の葬送儀礼と政治権力」『死者の葬送と記念に関する比較文明史―親族・近隣社会・国家―』科学研究費補助金プロジェクト報告 基盤研究（A），大阪大学文学研究科，pp.123-137, 2007.6
51. 福永伸哉「前方後円墳成立期の東四国と畿内」『鳴門史学』21，鳴門史学会，pp.1-16, 2007.10
52. 福永伸哉「継体王権と韓半島の前方後円墳」『勝福寺古墳の研究』大阪大学文学研究科，pp.425-434, 2007.10
53. 福永伸哉「古墳出現期の大和川と淀川―古市古墳群成立前史をめぐって―」『近畿地方における大型古墳群の基礎的研究』奈良大学文学部，pp.439-450, 2008.3
54. 福永伸哉「青銅鏡の政治性萌芽」『弥生時代の考古学』７巻，同成社，pp.112-126, 2008.5
55. 福永伸哉「３世紀摂河泉の首長墓の動態」『邪馬台国時代の摂津・河内・和泉と大和』香芝市教育委員会，pp.67-74, 2008.7
56. 福永伸哉「大阪平野における３世紀の首長墓と地域関係」『待兼山論叢』第42号，大阪大学文学研究科，pp.1-26, 2008.12
57. 福永伸哉「三角縁神獣鏡に見られる長方形鈕孔の出現背景について」『東アジアの古代文化』137号，大和書房，pp.265-266, 2009.1
58. 福永伸哉「古代国家形成期における日韓交流史の考古学的再構築―相互交流の視点を重視して―」『2008年度大学研究助成アジア歴史研究報告書』（財）JFE21世紀財団，pp.59-68, 2009.3
59. 福永伸哉「青銅器から見た古墳成立期の太平洋ルート」『弥生・古墳時代における太平洋ルートの文物交流と地域間関係の研究』高知大学人文社会学系，pp.55-70, 2010.3
60. 福永伸哉「同笵鏡論・伝世鏡論の今日的意義について」『待兼山考古学論集Ⅱ』大阪大学考古学研究室，pp.327-340, 2010.3
61. 福永伸哉「佐世保市門前遺跡の弥生時代木組み遺構」『郷土の遺跡展―発掘が明らかにした知られざる歴史―』長崎県教育委員会，pp.1-22, 2010.3
62. 福永伸哉「銅鏡の政治利用と古墳出現」『日本考古学協会2010年度兵庫大会研究発表資料集』日本考古学協会，pp.153-166, 2010.10

63. 福永伸哉「古墳時代政権交替と畿内の地域関係」『古墳時代政権交替論の考古学的再検討』大阪大学文学研究科，pp.5-18, 2011.3
64. 北原梨江・福永伸哉「丹後型円筒埴輪の２系統とその展開過程」『太邇波考古』33号，両丹考古学研究会，pp.1-11, 2011.8
65. 福永伸哉「埋葬姿勢と埋葬配置」『古墳時代の考古学』６巻，同成社，pp.227-234, 2011.10
66. 福永伸哉「古墳時代研究と時間軸」『古墳時代の考古学』１巻，同成社，pp.1-6, 2011.12
67. 福永伸哉「古墳時代研究の新たな広がり」『古墳時代の考古学』８巻，同成社，pp.1-5, 2012.3
68. 福永伸哉「国家形成と前方後円墳の時代」百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進国際シンポジウム報告書，百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議，pp.25-34, 2012.3
69. 福永伸哉「副葬品」『講座日本の考古学』８，青木書店，pp.430-453, 2012.5
70. 福永伸哉「前方後円墳成立期の吉備と畿内」『吉備と邪馬台国―霊威の継承―』大阪府立弥生文化博物館，pp.80-85, 2013.10
71. 福永伸哉「前方後円墳の成立」『岩波講座日本歴史』１，岩波書店，pp.169-202, 2013.11
72. 福永伸哉「近江の古墳時代史と雪野山古墳」『古墳時代前期の王墓』サンライズ出版，pp.6-36, 2014.2
73. 福永伸哉・近藤勝義「突線鈕式銅鐸破砕プロセスの金属工学的検討とその考古学的意義」『纒向学研究センター紀要』２，桜井市纒向学研究センター，pp.1-10, 2014.3
74. 福永伸哉「古墳時代と国家形成」『古墳時代の考古学』９巻，同成社，pp.7-20, 2014.6
75. 福永伸哉「21世紀の古墳時代像」『古墳時代の考古学』９巻，同成社，pp.1-6, 2014.6
76. FUKUNAGA Shin'ya, "The Kofun Period and Japan's state formation: Tomb building as a method of administration", *The Kofun Period in the Early 21st Century: Toward a Comprehensive Overview and its Internationalization*, Graduate School of Letters Osaka University, pp.7-13, 2015.3
77. 福永伸哉「前方後円墳と世界の墳丘墓築造」『21世紀初頭における古墳時代歴史像の総括的提示とその国際発信』大阪大学文学研究科，pp.109-114, 2015.3
78. 福永伸哉「考古学と古代史研究の架け橋―吉田晶氏の古代国家形成論をめぐって―」『歴史科学』220・221合併号，大阪歴史科学協議会，pp.108-119, 2015.5
79. 福永伸哉・宇垣匡雅・古市秀治「平井西山（操山108号）古墳資料の研究」『古代吉備』第27集，pp.1-19, 2016.4

80. 福永伸哉「日欧墳丘墓比べ」『歴博』197，国立歴史民俗博物館，pp.7-10, 2016.7
81. 福永伸哉「畿内から見た城の山古墳」『城の山古墳発掘調査報告書』新潟県胎内市教育委員会，pp.489-494, 2016.10
82. 福永伸哉「大学における考古学教育」『考古学ジャーナル』690，ニュー・サイエンス社，pp.6-8, 2016.10
83. 福永伸哉「ヤマト政権成立期における猪名川流域の重要性」『待兼山論叢』第50号，大阪大学文学研究科，pp.1-27, 2016.12
84. 福永伸哉「小熊山古墳・御塔山古墳をめぐって―３～５世紀代のヤマト政権と別府湾勢力―」『東西交流の窓 小熊山古墳・御塔山古墳―九州と瀬戸内海をつなぐ両古墳―』大分県杵築市教育委員会，pp.17-26, 2017.11
85. 福永伸哉「古墳出土の内行花文鏡と方格規矩鏡」『待兼山考古学論集Ⅲ』大阪大学考古学研究室，pp.199-212, 2018.3
86. 福永伸哉「邪馬台国と纒向遺跡・箸墓古墳」『畿内の古代学』Ⅱ，雄山閣，pp.2-15, 2018.9
87. FUKUNAGA Shin'ya, "Mounded Tombs of the Kofun Period: Monuments of Administration and Expressions of Power Relationships", *Burial Mounds in Europe and Japan; Comparative and Contextual Perspectives*, Archaeopress, pp.195-204, 2018.11
88. 福永伸哉「日本の古墳と世界の墳丘墓」『日本古墳研究リソースを活かした墳丘墓築造と社会関係の国際研究展開』大阪大学文学研究科，pp.9-18, 2019.3
89. 福永伸哉「近畿弥生社会における銅鐸の役割」『淡路島松帆銅鐸と弥生社会』季刊考古学別冊28，雄山閣，pp.65-74, 2019.5
90. 福永伸哉「如意谷銅鐸の評価をめぐって」『歴史・民俗・考古学論攷』郵政考古学会，Ⅲ，pp.419-430, 2019.6
91. 福永伸哉「三角縁神獣鏡の伝世現象と出土古墳の性格」『古墳と国家形成期の諸問題―白石太一郎先生傘寿記念論文集』山川出版社，pp.384-388, 2019.10
92. 福永伸哉「百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録」『月刊文化財』第一法規，№675, pp.11-15, 2019.12
93. 福永伸哉「国の成り立ちと史跡城の山古墳」『史跡城の山古墳国指定記念講演会記録集』新潟県胎内市教育委員会，pp.20-39, 2020.3
94. 福永伸哉「世界遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群」『古代文化』古代学協会，72-2, pp.96-103, 2020.9

95. 福永伸哉「近畿中部における弥生時代木棺の型式と展開」『柳本照男さん古稀記念論集―忘年之交の考古学―』柳本照男さん古稀記念論集刊行会，pp.23-32, 2020.12
96. 福永伸哉「大垣市東町田墳墓群からの着想」『昼飯の丘に集う―中井正幸さん還暦記念論集―』中井正幸さんの還暦をお祝いする会，pp.161-170, 2021.3
97. 福永伸哉「武寧王陵出土鏡の系譜と年代」『百済研究』74, 忠南大学校百済研究所，pp.24-41, 2021.8
98. 福永伸哉「日本考古学と埋蔵文化財行政」『季刊考古学』第158号，雄山閣，pp.27-28, 2022.2
99. 福永伸哉「ヤマト政権の誕生と三角縁神獣鏡」『大分県立歴史博物館紀要』42，大分県教育委員会，pp.1-18, 2022.3
100. 福永伸哉「ヤマト政権成立期における畿内地域の円丘墓と方丘墓」『纒向学の最前線』，桜井市纒向学研究センター，pp.357-366, 2022.7
101. 福永伸哉「ヤマト政権成立過程における畿内の地域間関係」『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』大阪大学人文学研究科，pp.41-60, 2022.9
102. 福永伸哉「고대 일본의 상장의례와 전방후원분（古代日本の喪葬儀礼と前方後円墳）」『고대　동아시아의 상장의례』韓国国立公州博物館，pp.65-115, 2022.10
103. 福永伸哉「近畿と東北」『国家形成期におけるヤマト政権と地域権力の相互関係の再定義―東北地方を中心に―』福島大学行政政策学類，pp.55-64, 2023.3
104. 福永伸哉「長尾山丘陵における前方後円墳の調査」『わがまちの景観を織りなす歴史』宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会，pp.13-18, 2023.3
105. 福永伸哉「弥生時代木棺の小口板の木取りについて―神戸市北青木遺跡の事例を起点にして―」『菟原３　森岡秀人さん古稀記念論集』森岡秀人さん古稀記念会，pp.243-254, 2023.9
106. 福永伸哉「ヤマト政権の成立過程と三角縁神獣鏡の研究」『ひろしまの遺跡2022―報告と講演―記録集』（公財）広島県教育事業団，pp.45-83, 2023.12
107. 福永伸哉「百舌鳥・古市古墳群と世界の王墓」『何が歴史を動かしたのか』第3 巻，雄山閣，pp.81-92, 2023.12
108. 福永伸哉・上田直弥「宝塚市安倉高塚古墳の再検討」『市史研究紀要たからづか』第31号，宝塚市教育委員会，pp.1-15, 2024.1
109. 福永伸哉「三角縁神獣鏡とヤマト政権の形成」『日本史の現在』１，山川出版社，pp.126-140, 2024.5
110. 福永伸哉「桜井茶臼山古墳の銅鏡群と倭王の性格」『日本考古学の論点（上）』雄山閣，

pp.145-152, 2024.6
111. 福永伸哉「三角縁神獣鏡と親魏倭王」『考古学が解明する邪馬台国の時代』日本考古学協会，pp.16-27, 2024.9
112. 福永伸哉「コウヤマキ材木棺の展開と畿内弥生社会」『待兼山論叢』第58号，大阪大学人文学研究科，pp.1-28, 2025.3

【発掘調査報告書】

（編著）

1．福永伸哉（編）『鳥居前古墳』大山崎町教育委員会，1987.3
2．福永伸哉（編）『待兼山遺跡Ⅱ』大阪大学埋蔵文化財調査委員会，1988.3
3．福永伸哉（編）『鳥居前古墳―総括編―』大阪大学考古学研究室，1990.3
4．福永伸哉（編）『桜井谷窯跡群2-23号窯跡』豊中市教育委員会，1991.12
5．福永伸哉（共編）『雪野山古墳発掘調査概報』八日市市教育委員会，1993.3
6．福永伸哉（編）『雪野山古墳Ⅲ』八日市市教育委員会，1993.3
7．福永伸哉（共編）「井ノ内稲荷塚古墳第２次調査概要」『日本古代の葬制と社会関係の基礎的研究』大阪大学文学部，1995.3
8．福永伸哉（共編）『雪野山古墳の研究』八日市市教育委員会，1996.3
9．福永伸哉（共編）『井ノ内稲荷塚古墳の研究』大阪大学文学研究科，2005.5
10. 福永伸哉（共編）『勝福寺古墳の研究』大阪大学文学研究科，2007.10
11. 福永伸哉（編）『長尾山古墳第１次発掘調査概報』大阪大学文学研究科，2008.9
12. 福永伸哉（編）『長尾山古墳第２次・第３次発掘調査概報』大阪大学文学研究科，2009.3
13. 福永伸哉（編）『長尾山古墳発掘調査報告書』大阪大学文学研究科，2010.3
14. 福永伸哉（編）『長尾山古墳第６次・第７次発掘調査概報』大阪大学文学研究科，2011.3

（分担執筆）

1．福永伸哉「検出遺構」『待兼山遺跡』大阪大学，1984.3
2．福永伸哉「検出遺構」『長法寺南原古墳Ⅱ』大阪大学南原古墳調査団，1984.3
3．福永伸哉「総括」『長法寺南原古墳Ⅳ』大阪大学南原古墳調査団，1990.3
4．福永伸哉「墳丘と埋葬施設」『雪野山古墳』八日市市教育委員会，1990.3
5．福永伸哉「石室の構造」『雪野山古墳Ⅱ』八日市市教育委員会，1992.3
6．福永伸哉「総括」『井ノ内稲荷塚古墳Ⅰ』長岡京市教育委員会，1996.3
7．福永伸哉「総括」『井ノ内稲荷塚古墳Ⅱ』長岡京市教育委員会，1997.3

８．福永伸哉「総括」（「井ノ内稲荷塚古墳第５次調査概報」『古墳時代首長系譜変動パターンの比較研究』）大阪大学文学部，1999.3
９．福永伸哉「総括」『川西市勝福寺古墳発掘調査報告』川西市教育委員会，2006.3

【科学研究費補助金等成果報告書】

１．福永伸哉『原始古代共同墓地の考古学的研究』大阪大学文学部，1994.3
２．福永伸哉『古墳時代政治史の考古学的研究―国際的契機に着目して―』大阪大学文学部，1998.3
３．福永伸哉『弥生・古墳時代青銅器の使用痕研究』大阪大学文学研究科，2001.3
４．福永伸哉（編）『文化財のデジタルコンテンツ化とその応用に関する研究』大阪大学文学研究科，2003.3
５．福永伸哉（編）『西日本における前方後円墳消滅過程の比較研究』大阪大学文学研究科，2004.3
６．福永伸哉（編）『原始古代埋葬姿勢の比較考古学的研究』大阪大学文学研究科，2007.3
７．福永伸哉（編）『古墳時代政権交替論の考古学的再検討』大阪大学文学研究科，2011.3
８．福永伸哉『三角縁神獣鏡および共伴銅鏡集成』大阪大学文学研究科，2013.3
９．福永伸哉（共編）『21世紀初頭における古墳時代歴史像の総括的提示とその国際発信』大阪大学文学研究科，2015.3
10. 福永伸哉（共編）『日本古墳研究リソースを活かした墳丘墓築造と社会関係の国際研究展開』大阪大学文学研究科，2019.3
11. 福永伸哉（共編）『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』大阪大学人文学研究科，2022.9

古川裕名誉教授 略歴・主要業績

略 歴

1959年８月　京都市東山区において、古川逸朗と美代子の長男として出生。

1978年４月～1982年３月　大阪外国語大学外国語学部中国語学科で学ぶ。１年次から学部の卒業論文、そして現在に至るまで、大河内康憲先生のご指導を仰ぐ。

1982年４月～1984年３月　東京大学文学部中国語中国文学専修課程に学士入学。

1984年４月～1986年３月　東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻に進学し、平山久雄先生に師事。

1986年９月～1988年７月　北京大学中文系朱徳熙先生、陸俟明先生、馬真先生の下で留学研修、身分は中国政府奨学金高級進修生。

1988年10月　大阪外国語大学外国語学部助手に採用され、母校の教壇に立つ。その後、講師（1990年１月）、助教授（1993年１月）、教授（2005年３月）。

1989年３月　北京留学中に書いた《副词修饰“是”字情况考察》（《中国语文》1989年第一期）と《“的s”字结构及其所能修饰的名词》（《语言教学与研究》1989年第一期）が公刊され、斯界デビュー作となる。

1994年４月～1996年３月　大学入試センター教科（中国語）専門委員。

1996年10月～1997年３月　北京日本学研究センターで客員助教授として「対照言語学」などの授業を担当。

2004年９月～2008年７月　北京大学中文系博士課程に在職留学し、陸俟明先生のご指導を仰ぐ。

2007年10月　大学統合により、大阪大学言語文化研究科教授に配置換え。

2008年４月～2009年３月　北京オリンピックイヤーにNHK『テレビで中国語』講師を担当、ゲストは小池栄子さん。

2008年７月　論文《基于认知“凹凸转换”原则的现代汉语语法研究》により、北京大学中国語言文学系から文学博士学位を授与される。

2011年４月～2013年３月　大阪大学上海教育研究センター長を兼務。

2021年３月　中国語で書いた既発表の論文18本を収めた《现代汉语认知语法与教学语法研究》が、コロナ禍であった北京・商務印書館より刊行される。

2022年４月　学内改組により大阪大学人文学研究科外国学専攻教授。

2025年３月　大阪大学人文学研究科を定年退職。

主要業績

【単著】

『中国語発音・形態編』、『中国語総合編』，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1991年６月。

『チャイニーズ・プライマー vol.1』、『チャイニーズ・プライマー vol.2』，東方書店，1993年２月，８月。

『ヒアリング・チャイナナウ』，大阪外国語大学，1996年。

『離婚指南：別れのてびき』蘇童原著，古川裕編注，東方書店中国現代小説系列，1997年。

『CD版HSK対策３～５級』，アルク，2001年９月。（『HSK対策』韓国語版，韓国時事日本語社，2002年）。

『チャイニーズ・プライマー New Edition』，東方書店，2001年３月。

『HSK《漢語水平考試》徹底対策』，アルク，2006年５月。

『テレビで中国語：イメージでつかむ中国語！』，日本放送出版協会，2008年４月～2009年３月。

『中国語の文法スーパーマニュアル』，アルク，2008年４月。

『新感覚！イメージでスッキリわかる中国語文法―文法の規則を覚える前にネイティブの感覚を身につけよう！』，アルク，2009年２月。

《现代汉语认知语法与教学语法研究》，商务印书馆，2021年３月。

【共著】

『病院看護職員のための中国語』（胡士雲・古川裕），（財）全国市町村振興協会、全国市町村国際文化研修所，1994年。

『公務員のための中国語』（胡士雲・古川裕），（財）全国市町村振興協会、全国市町村国際文化研修所，1998年。

『消防職員のための中国語：消防队员用汉语会话教程』（胡士雲・古川裕），（財）全国市町村研修財団，1994年。

《对日汉语语法教学法》（黄晓颖・古川裕），北京语言大学出版社，2013年６月。

【編著】

『白水社中国語辞典』，伊地智善継主編，白水社，2002年２月。

『ポケットプログレッシブ中日・日中辞典』，武信彰・山田眞一・森宏子・古川裕編，小学館，

2006年２月。

《日本现代汉语语法研究论文选》，張黎・任鷹・下地早智子・古川裕共編，北京语言大学出版社，2007年９月。

『超級クラウン中日辞典』，松岡榮志主幹：樋口靖・白井啓介・代田智明・費錦昌・古川裕共編，三省堂，2008年２月。

【監訳・翻訳】

『現代中国語総説』（原著：北京大学中文系现代汉语教研室《现代汉语》，商务印书馆，2003年）松岡榮志・古川裕監訳，三省堂，2004年６月。

『ビジネス中国語単語パーフェクト1400』（原著：张进凯・田胜泉《商务汉语考试词汇卡片Ⅱ》，外语教学与研究出版社，2008年），三省堂，2012年４月。

『現代中国語 文法六講』（原著：沈家煊《语法六讲》，商务印书馆，2011年），日中言語文化出版社，2014年９月。

『胡同及びその他―言語学から見る「胡同」という言葉の由来と北京の街路名』（原著：张清常《胡同及其他（增订本）》，北京语言大学出版社，2004年），語文研究社，2015年10月。

『日本語と華語の対訳で読む台湾原住民の神話と伝説』（原著：『台湾原住民的神話與傳說』，幸福綠光股份有限公司，2016年），古川裕・林初梅監訳，三元社，2019年11月。

『中国語と中国語研究十五講』（原著：陆俭明、沈阳《汉语和汉语研究十五讲》，北京大学出版社，2016年），古川裕監訳，葛婧・畢曉燕・中田聡美訳，東方書店，2021年６月。

『国際中国語教育中国語レベル等級基準』（原著：中外语言交流合作中心《国际中文教育中文水平等级标准》，2021年），古川裕監訳、古川典代訳、アスク出版，2022年２月。

『国際中国語教師専門能力規準』（原著:中外语言交流合作中心《国际中文教师专业能力标准》，2022年），アスク出版，2023年12月。

『基礎から学ぶ実用台湾華語初級』（原著：《當代中文課程》第一冊，台灣師範大學國語教學中心，聯經出版事業股份有限公司，2021年）IBCパブリッシング，2024年10月。

【監修】

『話し放題中国語』（古川裕監修、盧華岩著），金星堂，2008年１月。

『話し放題中国語スリム版』（古川裕監修、盧華岩著），金星堂，2009年１月。

『アクション！開始！』（古川裕監修、鈴木慶夏著），朝日出版社，2016年２月。

『アクション！開始！２』（古川裕監修、鈴木慶夏著），朝日出版社，2017年２月。

『巨大中国の今：中級中国語ディベートへの招待』（古川裕監修、張恒悦著），朝日出版社，

2019年１月。

【論文】

内容修飾語を承ける名詞の類

『中国語』1988年10月号，大修館書店。

副词修饰“是”字情况考察

《中国语文》1989年第１期。

“的s”字结构及其所能修饰的名词

《语言教学与研究》1989年第１期。

禁止表現をめぐって

『中国語』1992年４月号，内山書店。

疑問表現をめぐって―コトの〈疑い〉とムードの〈問いかけ〉

『中国語』1992年５月号，内山書店。

みせかけの疑問表現について―“明知故问”の語気詞“嘛”

『中国語』1992年６月号，内山書店。

否定疑問“不是……吗？”の表現意図

『中国語』1992年７月号，内山書店。

副詞“也”の接続機能―並立添加そして逆接譲歩

『中国語』1992年８月号，内山書店。

状態形容詞を含む名詞句の特性

『中国語』1994年９月号，内山書店。

数量詞限定名詞句の認知文法

『大河内康憲教授退官記念中国語学論文集』，東方書店，1997年３月。

指称性词组和陈述性词组－状态形容词的名词修饰功能

《第五届国际汉语教学讨论会论文选》，北京语言文化大学出版社，1997年10月。

谈现象句与双宾语句的认知特点

《汉语学习》1997年第１期;《汉语法特点面面观》，北京语言文化大学出版社，1999年３月。

现象句和双宾语的认知特点－“数＋量＋名”词组的出现条件

『日本語と中国語の対照研究』第17号，1997年３月。

移動事物的〈顕眼性〉與名詞的〈有標性〉―認知和語言的相關關係

《第五届世界華語文教学研討会論文集》，1997年12月。

『日本語科学４』，国立国語研究所，1998年10月。

日中作文コーパスにおける数量表現について

『日中作文コーパスの作成とその利用　論文とデータ』，国立国語研究所日本語教育センター，1999年３月。

世界の言語研究所（５）：語言文字応用研究所（中国）

『日本語科学５』，国立国語研究所，1999年４月。

認知言語学による中国語研究の新展開

『言語』〔リレー連載：海外言語学の最新動向⑤中国〕2000年５月号，大修館書店。

“跟”字的语义指向及其认知解释－起点指向和终点指向之间的认知转换

《第六届国际汉语教学讨论会论文选》，北京大学出版社，2000年９月；《语言教学与研究》2000年第３期。

有关“为”类词的认知解释

《语法研究和探索（十）》，商务印书馆，2000年９月。

現代漢語疑問句的両個功能系統—表疑句式和提問句式

《第六届世界華語文教学研討会論文集》，2000年12月。

在日本实施的汉语能力测试的若干问题

《对日汉语教学国际研讨会文集》，中国社会科学出版社，2001年１月。

外界事物的“显著性”与句中名词的“有标性”－“出现、存在、消失”与“有界、无界”

《当代语言学》2001年第４期。

〈起点〉指向和〈终点〉指向的不对称性及其认知解释

《世界汉语教学》2002年第３期；《汉语语法研究的新拓展（一）》，浙江教育出版社，2002年12月。

现代汉语感受谓语句的句法特点－“叫／让／使／令”字句和“为”字句之间的语态变换

《语言教学与研究》2003年第２期;《第七届国际汉语教学讨论会论文选》，北京大学出版社，2004年。

词法和句法之间的互动及其接口－以“可怕／怕人”和“好吃／难吃”等句法词为例

『現代中国語研究』第５期，朋友書店，2003年10月；《汉语词汇・句法・语音的相互关联》，北京语言大学出版社，2007年４月。

“怕”类词的句法功能及其扩展机制－“怕”“害怕”“可怕”“哪怕”“恐怕”“怕是”等词语的内在联系

『平井勝利教授退官記念中国学・日本語学論文集』，白帝社，2004年３月；《汉语语法研究的新拓展（二）》，浙江教育出版社，2005年２月。

现代汉语句法以及词法的认知语言学研究－以“凹凸转换原则”为例

《汉语研究与应用》第二辑，中国社会科学出版社，2004年７月。

对外汉语教学语法和汉语认知语法－“怎么教”和“怎么解释”

武汉大学《汉字、汉语、汉文化》，新世界出版社，2004年９月。

中国語の比較構文と程度副詞

月刊『言語』特集「比べる」2004年10月号，大修館書店。

现代汉语的中动态句式－语态变换的句法实现和词法实现

《汉语学报》2005年第２期；《汉语被动表述问题研究新拓展》，华中师范大学出版社，2006年５月。

关于动词“来”和“去”选择的问卷调查报告

《汉语教学学刊》第１期，北京大学出版社，2005年７月；《中华文化传播：任务与方法》，上海人民出版社，2008年10月。

“要”类词的认知解释－论“要”字由动词到连词的语法化途径

《世界汉语教学》2006年第１期；《语言文字学》2006年第６期，中国人民大学书报资料中心编复印报刊资料；《第八届国际汉语教学讨论会论文选》，高等教育出版社，2007年４月。

現代中国音楽とのコミュニケーション

『異文化コミュニケーションを学ぶ人のために』，世界思想社，2006年３月。

助动词“要”的语义分化及其主观化和语法化

《对外汉语研究》第二期，2006年８月。

中国語構文の認知的特徴

『EX ORIENTE』vol.13，大阪外国語大学言語社会学会，2006年４月。

日本汉语教育的现状与未来的课题

《第８届　韩中教育文化论坛－韩国外大BK21新韩中文化战略事业团国际学术会议论文集“汉语教育的发展方向”》，韩国外国语大学校，2006年10月。

认知语言学研究在汉语语法教学上的应用价值

《21世纪世界汉语教学理论与实践》，韩国淑明女子大学中文系，2006年12月。

日本“中國語”教育的現狀及課題—兼論日本近十年來實施的大學入學考試中心“中國語”考試的回顧及其試題分析

《第八屆世界華語文教學研討會會議手冊》，2006年12月。

中国語らしさの認知言語学的分析—日本語から見える中国語の世界

『日中対照言語学研究論文集』，和泉書院，2007年３月。

高等学校における中国語教育に期待するもの—教員レベルでの高大連携を例として

『中等教育における英語以外の語学教育』，2007年３月；『中国関係論説資料第50号　第２分冊（文学・語学）増刊』論説資料保存会，2010年１月。

关于日本全国统一高考“中国语”考试的反思

《世界汉语教学》2007年第３期。

助动词“要”的语义分化及其主观化和语法化

《日本现代汉语语法研究论文选》，北京语言大学出版社，2007年９月。

有关“亏”字语义转换现象的语用－认知解释

『現代中国語研究』第９号，朋友書店，2007年10月。

中国語における新生語句の生成と転生の諸相―復古と外来の圧力下で

『日本語学』2007年11月，明治書院。

日本“中国语”教学的新面貌－中学汉语教学和大学汉语教学的衔接问题

《云南师范大学学报（对外汉语教学与研究版）》2008年第２期；《中华文化传播：任务与方法》，上海人民出版社，2008年10月。

漢字簡化在對日漢語教學中起到的負面作用

《華文世界》第102期，華文世界雜誌社，2008年12月。

動詞由来型形容詞の意味と構造に関する日中対照研究―日本語「みにくい」と中国語“难过”を手がかりにして

《汉日理论语言学研究》学苑出版社，2009年６月。

“再”字NP作主语的“假单句”

《汉语学习》2009年第５期。

“变化”事件的两种认识及句式特点

《汉语学报》2009年第４期。

常用副詞“才”和“就”前後呼應句式的句法語意分析及其教學法

《第九屆世界華語文教學研討會：語言分析（１）》，2009年12月。

日本汉字和中国汉字－兼论日本学生对汉字字体的困惑

《汉语教学学刊》第５辑，北京大学出版社，2009年12月。

“我不想VP”和“我不要VP”－论第一人称主语句的否定意愿表现

《第九届国际汉语教学研讨会论文选》，高等教育出版社，2010年５月。

“才P就Q”句式的表达特点及其教学法

《汉语与汉语教学研究》創刊号，東方書店，2010年７月。

現代中国語の副詞呼応型“才P就Q”構文について―日本語で対応する表現とその教育法

《日语学习与研究》2010年第４期。

日本“中国语”教学概况

《全球语境下的汉语教学》，学林出版社，2011年２月。

汉字文化圈内的“汉语文化”教学

《国际汉语》第一辑，中山大学出版社，2011年５月。

关于“要”类词的认知解释－论“要”字由动词到连词的语法化途径

《汉语主观性与主观化研究》，商务印书馆，2011年11月。

流行歌曲的歌词在课堂上的应用

《第十届国际汉语教学研讨会论文选》，万卷出版公司，2012年４月。

現代中国語における〈変化〉事象の捉えかたと構文特徴

『日中理論言語学の新展望２：意味と構文』，くろしお出版，2012年４月。

现代汉语语法“认知凹凸转换理论”及其教学应用研究

《第十届全国语言学暑期高级讲习班学员手册》，复旦大学中文系，2012年７月。

现代汉语“起”类词的功能扩展机制及其感性教学

《汉语教学学刊》第８辑，北京大学出版社，2012年12月。

現代中国語における〈変化〉事象の捉えかたと構文特徴―〈断続的変化〉と〈連続的変化〉

《日语研究》第８辑，商务印书馆，2012年12月；《日语研究论文精选》，商务印书馆，2019年；『日中対照言語学研究論文集』第２巻，和泉書院，2024年２月。

现代汉语助动词“应该”的情态解读及其切换机制

《走向当代前沿科学的汉语语法研究》，商务印书馆，2013年５月；『木村英樹教授還暦記念中国語文法論叢』，白帝社，2013年５月。

日本語と中国語における〈流動〉及び〈流動物〉の認知特徴と言語表現

『現代中国語研究』第15期，朝日出版社，2013年10月。

從華語詞彙教學看中文修辭特點

『修辭學與國語文教學國際學術研討會論文集』，高雄師範大學國文學系，2013年12月。

グローバル・チャイニーズへの期待と不安

『トンシュエ』第48号，同学社，2014年10月。

汉语和日语〈流动（物）〉的认知特点及其表达特点

《汉语语言学日中学者论文集：纪念方经民教授逝世十周年》，好文出版，2015年９月。

日本の大学生の中国語学習動機づけ―全国６言語アンケート調査に基づく量的分析

王松・古川裕・砂岡和子，『中国語教育』第14号，2016年３月。

“左 VP 右 VP”对举格式的语法化

王峰・古川裕，《汉语学习》2016年第６期。

词法和句法之间的互动及其接口

『杉村博文教授退休記念中国語学論文集』，白帝社，2017年３月。

关于“再好的演员”一类词组

『楊凱栄教授還暦記念論文集』，朝日出版社，2017年７月。

擬製名詞句“再好的演员”をめぐる日本語と中国語の対照研究

《汉日语言对比研究论丛》第８辑，华东理工大学，2017年８月。

动词前“好”字的语法化途径－兼论“好V”型形容词的成立条件

《语言学研究的多元视野－庆祝史有为教授八十华诞文集》，商务印书馆国际有限公司，2017年８月。

汉语“对举形式”的语法特点及其教学对策

『現代中国語研究』第19号，朝日出版社，2017年10月；《汉语语体语法新探》，上海中西书局，2019年２月。

基于日语母语者偏误分析的在日汉语语法教学

張恒悦・古川裕，『中国語教育』第16号，2018年３月。

日本学生汉字知识对汉语教学的功和罪

《汉字文化圈汉语教学与研究》，河内国家大学出版社，2018年12月。

语素因素对日语母语者汉语词汇习得影响研究

李冰・古川裕，《汉语学习》2020年第２期。

A proposal for a pedagogical grammar syllabus in tertiary Chinese Language education in Japan

Keika Suzuki, Kaori Nishi, Yutaka Furukawa, Satomi Nakata, *In Frontiers of L2 Chinese Education: A Global Perspective,Routledge*, Sep 2021.

非现实性视角下对“再P也Q”句式的分析

申慧敏・古川裕，《汉语副词研究论集》第５辑，上海三联书店，2021年９月。

关于在日汉语教学语法体系的几点思考

张恒悦・古川裕，《汉语教学学刊》第14辑，北京大学出版社，2021年12月。

日本の多文化・多言語環境下でのコミュニケーション

全国市町村国際文化研修所『国際文化研修』第117号，2022年10月。

日本中国語学会編『中国語学辞典』，岩波書店，2022年10月。

執筆項目：「コンテクスト」「概念近接性の原則」「言語テスト」「時間順序原則」「譲渡不可能」「对外漢語教育」「統語的類像性」「隣接性の原理」「類像性の原理」。

中国語教育の「次の一手」

『トンシュエ』第65号，同学社，2023年３月。

大学における中国語教育の現状と課題

（座談会：古川裕・丸尾誠・清原文代・中川裕三・阿部慎太郎・小川典子・安倍悟）『中国21：中国語教育の危機，そして展開』vol.58，東方書店，2023年３月。

在外中文教育的新“三教问题”

《固本求新:国际汉语教学的新理念、新思路与新方法》，河内国家大学出版社，2023年２月。

近代以來日本“中國語“教學的歷程

《華語教學發展時空的移轉與匯集》，五南圖書出版公司，2023年６月。

外界事物的“显著性”与句中名词的“有标性”－“出现、存在、消失”与“有界、无界”，

方法谈:非汉语母语者尽量多用中文书写论文

《国际中文教育研究论文写作：案例与方法》，上海大学出版社，2023年11月。

中国語における“对”の表現と文法特徴

『中国語教育』第22号，2024年３月。

日本汉语中介语语料库的建设与探索

张恒悦・古川裕，《第七届汉语中介语语料库建设与应用国际学术讨论会论文选集》，上海三联书店，2024年６月。

从汉语教学看无关联词语转折复句的形式特点

李丹芸・古川裕，《对外汉语研究》第31辑，商务印书馆，2025年５月。

【大阪アジアン映画祭OAFF上映字幕翻訳作品】

『一万年愛してる』（《愛你一萬年》，北村豊晴監督2010年作品，台湾，2011年３月上映）。

『ソード・アイデンティティ』（《倭寇的踪迹The Sword Idfentity》，徐浩峰監督作品，中国，2012年３月上映，竹書房DVD）。

『離れられない』（《形影不离》，伍仕賢監督2011年作品，中国，2012年３月上映）。

『GF＊BF』（《女朋友。男朋友》，楊雅喆監督2012年作品，台湾，2013年３月上映）。

『二重露光』，（《二次曝光》，李玉監督2013年作品，中国，2013年３月上映）。

『上から見る台湾』（《看見台湾》，齊柏林監督2013年作品，台湾，2014年３月上映）。

『逆転勝ち』（《逆轉勝》，孔文燕監督2014年作品，台湾，2015年３月上映）。

『ファイナルマスター・師父』（《師父》，徐浩峰監督2015年作品，中国，2016年３月上映，竹書房DVD）。

『敗け犬の大いなる煩悩』（《令伯特烦恼》，鄭建国監督2017年作品，マレーシア，2017年３月上映）。

『大大ダイエット』(《大大哒》，周青元監督2018年作品，マレーシア，2018年３月上映)。

『悲しみより、もっと悲しい物語』(《比悲傷更悲傷的故事》，林孝謙監督2018年作品，台湾，2019年３月上映，TCエンタテインメントDVD)。

『大いなる餓え』(《大餓》，謝沛如監督2019年作品，台湾，2020年３月上映)。

『I人に生まれて』(《生而為人》，倪曜監督2021年作品，台湾，2021年３月上映，ライツキューブDVD)。

『宇宙探索編集部』(《宇宙探索编辑部》，孔大山監督2021年作品，中国，2022年３月上映，ムヴィオラDVD)。

『黒の教育』(《黑的教育》，柯震東監督2022年作品，台湾，2023年３月上映)。

『トラブルガール』(《小曉》，靳家驊監督2023年作品，台湾，2024年３月上映。